

週 報

1988年1月31日 降誕節第6主日

巻 8 44号

1987年度教会主題

「世の光、イエスに従う」

わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみの
うちを歩くことがなく、命の光をもつであらう。

ヨハネによる福音書8章12節

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会 堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目 8-2⁰

☎ 045-833-5323

振替 横浜 9-13994

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目 6-3-304

☎ 045-833-6616

牧師 **秋吉隆雄**

一牧師室から一

木曜日の朝の入門講座Iは、先週から申命記を読み始めた。新共同訳聖書を使っているが、大変読みやすい。戦後の教会で、聖書が文語訳から口語訳にスムーズに移行したようにはいかないだろうが将来、新共同訳聖書が礼拝で用いられるようになるだろう。

申命記は、紀元前七世紀ごろ南ユダが近隣列強国から圧迫を受け異教神が浸透してくる中で、真の信仰を訴える意図をもって編集されたものである。

舞台設定は、イスラエルがヨルダン川の東側を占領支配し、今から約束の地カナンに入ろうとする時、モーセが民に語る説教の形である。モーセはエジプトの奴隷からの解放以来ここまで、いかに多くの神からのしるしと奇跡に与かったかを、まず思い起こさせる。この生きて働く神への全き忠誠を促している。更に、モーセは民の犯した罪に対する神の怒りが自分に向けられ、贖罪のためカナンに

入れないと語る。今からカナンに進む民への別れの説教はいやがうえにも説得力を増す。

その中でモーセはこう語っている。「イスラエルよ、聞け。今日わたしは掟と法を語り聞かせる。わたしたちはこれを学び、忠実に守りなさい。我々の神、主は、ホレブで我々と契約を結ばれた。主はこの契約を我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きている我々すべてと結ばれた。」

ホレブでの契約は、紀元前千二百年代の後半、カナンに入ろうとするこのモーセの説教は、その四十年後となる。それを紀元前七世紀の申命記編集者は「今ここに生きている我々すべてと結ばれた」と信仰を現在化し、異教神の排斥を訴えている。パウロは「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である」と語っている。信仰は過去の歴史から学ぶが、神との関わりは、今ここで受けとめるのである。そこに生き生きした信仰が生まれる。